

大樹

てもつかさ狭いよれ集をえはなり形い刻っが私樹細
 おしたびと西くた朝あうて四う広るらど、樟をるまてあに冠い毎も
 ければ人、淋の見え小。あるに帰季。げ。はの昔か一字さ上板。小たげ面通の
 よい生はさをか。い大何。きじて呼初とて脳く、喜文たな樹^き爽たの樟
 か。活崇り感か。角樹か。たつたをじる細は小い。つもと違つた。こた。
 ったととめ恐る細。更地なも。家も。つそ。た。か。
 思早仕た心て。地に。な。も。つそ。た。か。
 った樹方。この朝見日月に不気味
 。幹なくの樟のた樹影が切
 なにし従事のし大樹のを切
 ぜなめ事したの影が切
 ら縄のたの影が切
 、をのたの影が切
 大巻のたの影が切
 樹いか切の影が切

野元正

思道ふ経命と次行はののう川津同念人説採い整そ地の口造てが
 う混をと済力先でぎし場残空橋古へ、名じ大なたがさなそ備のは大付か園樹む
 。沌も立のを人再、かをっ襲のい永京所よ阪がち始めののす跡都樹近つ家幹や
 とうちこ敬た度あし造たでた写代町函う鞞^{うぼ}ら^{うぼ}がまるののとる地市がにて仲にみ
 し一止といち命る、る。こも真濱堀絵な公後次つこ管きたに計あ夢鶴間しに
 た度まば尊はが女けたとのとに、川『話園につたと理、め高画つ野越でめ伐
 時振つかん大繋人がめこ一にもとなにもあある大亡のつこユ越宅の昭が西言のく
 代りてりだ樹がの人の、ろ帯は然このれ運か。楠樹くユたと一墓や一和あ神のく
 だ返、を。にっ奔やこのがは焼との樟て河れ戦永はなしらばカ園小環と十、へ
 かつ自追現神。もル樟駐け写樟はいた所りるあの樟れい採そ議樹が幼墓前中る
 らて然求代や。あドを軍野つは永た濱だ、の。塩う界大。の。だか怪れ風さな統こ
 こもとし人木。つし伐が原といのの。荷揚げ場代扱堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 そいとないもい生を。てザ採小とるの。の。明治時代扱堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 おのにで活感。神しし型なるの。の。魚干^{ほしか}海部堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 さで生、のじ。と故う専たが、の、場代扱堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 、なての利そ。う障と用の、の、場代扱堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 そいき辺さの。うかたでや生。こ相た飛樟。場代扱堀撰も残る伝伐弱たをと墓
 。